

質問	ナルフラフィン塩酸塩カプセル 2.5 μ g の簡易懸濁法での投与は可能ですか？
回答	<p>ナルフラフィン塩酸塩カプセル 2.5μg は 55℃の温湯で 10 分以内に崩壊・懸濁し、シリンジ内へのカプセル皮膜の残存が認められたものの、全量が 8 Fr.のチューブを通過しています。</p> <p>なお、懸濁液の有効成分残存率は、79.9～98.4%とばらつきが認められました。</p> <p>また、懸濁液の pH は 7.13 でした。</p> <p>詳しくは添付のデータをご覧ください。</p> <p>この資料は本剤の懸濁状態及びチューブの通過性を検討した資料であり、臨床で経管投与した場合の有効性・安全性の評価は行っておりません。</p> <p>本剤をご使用の際には添付文書をご確認の上、医療従事者の裁量と判断のもとに行っていただきますようお願い致します。</p>
参考資料	【ナルフラフィン塩酸塩カプセル 2.5 μ g「ケミファ」】 簡易懸濁法に関する資料